



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. モモ「玄桃（「冬桃がたり[®]）」の系統別特性

[要約]

「玄桃」は、11月中下旬に収穫される超極晩生品種である。この品種には、食感と食味以外の形質には大きな差はないが、軟化様相が異なる2つの系統がある。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「玄桃」は、11月頃に成熟する超極晩生品種であり、県下の一部で産地化が進んでいるが、これまでに、収穫後に果実が徐々に軟化する軟化系統と、軟化しにくい硬肉系統の2つの系統が確認されている。そこで、「玄桃」の系統別特性について、詳細に確認し、導入上の留意点を明確にする。

[成果の内容・特徴]

1. 開花期と収穫期には、系統間で差は認められない（表1）。
2. 収穫当日の果実硬度は、両系統ともに2.7~2.8kgfと高いが、「玄桃」（軟化系統）では、収穫9日後に2.0kgfまで低下し、その後も果実の軟化が進み、収穫14日後に約1.9kgfまで低下する（図1）。
3. 「玄桃」（硬肉系統）は、収穫後にやや軟化するが、収穫14日後でも2.2kgf程度の果実硬度である（図1）。
4. 収穫14日後の「玄桃」（軟化系統）では、やや軟らかい食感で、果汁が感じられるが、「玄桃」（硬肉系統）ではサクサクした食感で果汁が少ない傾向がある（官能評価）。
5. 果実重は、両系統の間には大差がなく、230g程度であり、糖度は両系統とも19度以上で大差はない（表2）。
6. 裂皮、核割れ及び果肉障害の発生についても、系統間で大差はない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「玄桃」は、JA岡山西（現JA晴れの国岡山）で2012年に商標登録され、「冬桃がたり」の名称で販売されている。
2. 両系統ともに立木性が強く、いぼ皮病等の粗皮症状が多く認められる（観察による）。
3. 導入や増殖に際しては、系統間の差異があることを留意する必要がある。また、いぼ皮病に罹病した樹からの穂木の採取を避ける。
4. 「清水白桃」等の溶質性のモモの収穫当日の果実硬度は、2.0~2.5kgf程度で、収穫3日後に約1.0kgfまで軟化する。
5. 調査時（2021年時点）の樹齢は、「玄桃」（軟化系統）で9年生、「玄桃」（硬肉系統）で7年生である。



[具体的データ]

表1 「玄桃」(軟化系統、硬肉系統)の開花期と収穫期(2019年～2021年)

系統	開花期(月/日)			収穫期(月/日)	
	始期	盛期	終期	始期	終期
玄桃(軟化系統)	3/28	3/29	4/1	11/14	11/22
玄桃(硬肉系統)	3/28	3/30	4/1	11/14	11/22

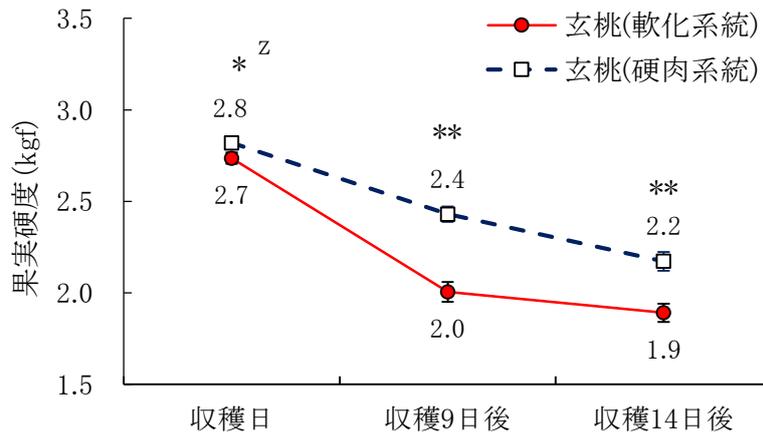


図1 「玄桃」(軟化系統、硬肉系統)果実硬度の推移(2020年)
(表中のバーは標準誤差を示す(n=40))

^z **は1%水準、*は5%水準で有意差あり(t検定)

表2 「玄桃」(軟化系統、硬肉系統)の果実品質、生理障害及び果肉障害(2019年～2021年)

系統	果実重(g)	糖度(°Brix)	果汁pH	果実硬度 ^z (kgf)	香り ^y (0-4)	裂皮 ^x (0-5)	核割れ果率(%)	赤肉症(%)	水浸状果肉褐変症(%)
玄桃(軟化系統)	232	19.2	4.7	1.7	1.8	2.2	1.7	0	1.7
玄桃(硬肉系統)	234	19.9	4.6	2.3	1.8	2.1	1.7	0	1.7
有意性 ^w	ns	ns	ns	*	ns	ns	ns	-	ns

^z 果実硬度は収穫14日後に果実チーク部を果実硬度計(藤原社製 KM-5、円錐形)で測定

^y 香りは官能により5段階評価(無:0、微:1、少:2、3:中、4:多)

^x 裂皮は達観により6段階評価(無:0、微:1、少:2、3:中、4:多、5:裂果)

^w *はt検定により5%水準で有意差あり、nsは有意差なし(発生率はアークサイン変換後に検定)

[その他]

研究課題名: 果樹導入品種の選定

予算区分・研究期間: 県単・昭56年度～

研究担当者: 河村美菜子、佐々木郁哉、樋野友之、鶴木悠治郎

関連情報等: 1) 福田ら(2021)園学研, 20(1):65-71